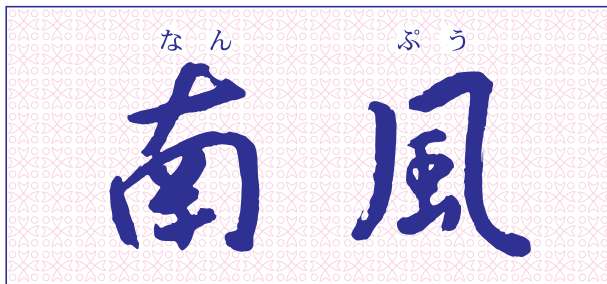


令和元年度
春季号



発行
公益財団法人
沖縄県交通遺児育成会

〒900-0027
沖縄県那覇市山下町18番26号
山下市街地住宅2階B-211号室
電話(098) 987-0743
FAX (098) 987-0744
<http://okiko-iku.com>

交通遺児に返済不要の奨学金給付を行っています

私たち沖縄県交通遺児育成会は、交通事故で父や母、あるいはこれに代わる保護者が亡くなられたお子さまを支援しています。また、交通事故が原因で後遺障害(身体障害者等級1級〜4級)を負い、これまでのような就労が困難となった保護者のお子さまも対象で、県内の児童、生徒、学生に対し返済不要の奨学金の給付を行っている団体です。交通事故の被害者側、加害者側は問わず、一家族からの人数の制限もありません。

進学の夢を諦めてほしくない!!

夢を追うお子さまと、その夢を応援する方々を繋ぐ懸け橋として私たちは活動しています。当育成会の給付支援をご希望される方は、左記に該当するかをご確認のうえ、事務局までお問い合わせください。

●給付認定条件

- 1 保護者の年間所得金額が400万円未満であること
 - 2 後遺障害の場合、身障者手帳の1級〜4級であること
 - 3 保護者が再婚されていないこと
 - 4 生活保護の教育扶助を受けていないこと
 - 5 留年・休学等をしていないこと
- ※その他、詳細については直接お問い合わせください。

交通遺児と認定されますと下記のような支援が受けられます。

奨学育成金

対象者	支給額(毎年)
小学生	48,000円
中学生	54,000円
高校生	96,000円
専門学校生	120,000円
大学生	240,000円

激励金

対象者	支給額
小学校入学	15,000円
中学校入学	20,000円
中学校卒業	20,000円

入学時及び卒業時には激励金が贈られます。

見舞金

対象者	支給額
小学生	30,000円
中学生	30,000円
高校生	30,000円

年度内に交通遺児となった児童・生徒へお見舞金が贈られます。

その他、リーダー育成金として県青少年育成県民会議が主催する交流体験事業への派遣費用も当会が負担します。

～交通遺児に愛の手を～

1月の寒空の下、「交通遺児に愛の手を」と行き交う人に募金を呼び掛ける沖縄バスの皆さま。毎年、子どもたちの力になりたいと、多くの企業や団体、個人の方々から寄せられる貴重な寄付金で、交通遺児育成事業が支えられています。



沖縄バスのバスガイドらによる街頭募金 (2020年1月10日、パレット久茂地前広場にて)



あなたの善意が交通遺児の心の支えに

新事務局長に 伊元清氏



沖縄県
交通遺児
育成会の
新事務局
長に伊元清氏が3月2日
付で着任した。伊元氏は
昭和35年生まれ、具志頭
村(現・八重瀬町)出身。
昭和60年に琉球新報社に
入社し、編集局社会部、
電子情報部、写真映像
部、調査オピニオン部、
事務局、総務局などに勤
務。今年2月、印刷局次
長として定年退職した。

伊元氏は「昭和46年の『沖縄交通遺児を励ます会』発足にはじまる育成会は、もうじき創立50年を迎えます。数え切れない多くの善意と、たゆみない関係者の尽力で、交通遺児を励ます事業が継続されてきました。事務局スタッフと協力し事業推進に努めたい」と抱負を述べた。

事務局長は昨年8月から空席だった。

高校受験や初めての一人暮らしなど、子どもたちは頑張っています!!

- 保育士(病児保育士)の夢に向かって高校受験を頑張ります。(中学3年、宜野座村・Iさん)
- 私はいつも支えてくれる家族に改めて感謝したいと思います。私は現在、実家から離れ一人暮らしをしています。最初のころはとても心細く、寂しい気持ちでいっぱいでした。もちろん、勉強やご飯を作ることなど、全部自分で行うことにも不安はありましたが、やはり帰ってくる家に迎えてくれる人がいないのは、とても寂しかったです。
実家に帰ると、母の作ってくれたご飯はとても温かくて美味しく、学校での愚痴や相談事などを聞いてくれたり、弟とは漫画の話やゲームをするなどして、日々のストレスと一緒に発散しています。家族と過ごす休日とはとても有意義で、あっという間に終わってしまいます。
だからこそ私は一人暮らしをして、家族がいることの大切さを改めて感じる事ができました。一緒に話をしたり、同じ食卓でご飯を食べることができるのは、とても幸せだと感じます。私は、その幸せが今の私を支えてくれて、勉強も、一人暮らしでの生活も頑張ることができます。
(専門1年、読谷村・Hさん)
- 皆様に応援していただき、無事中学校卒業と高校入試を終えることができました。本当に有難うございます。
高校に入学したら、バスケットボールを続けていきます。今年の目標は一年生からベンチメンバーを目指します。そのためには、体力づくりをしていきます。高校生は体格がよく力強いです。それに負けない体をつくっていきます。もちろん勉強も両立させます。この一年は私にとって勝負の一年になると思います。勝つか負けるかは、自分の努力次第と思っています。(中学3年、読谷村・Hさん)

4月の新たなスタートを前に、保護者から感謝のことが寄せられました。

- 高校在籍中の三年間、温かいご支援をいただきありがとうございます。3月に晴れて卒業し、本人の希望により4月からは専門学校へ進学します。(沖縄市・Hさん)
- 3月に、息子が無事に卒業いたします。また、県外の大学も推薦で決まりました。4月から新しい生活が始まりますが、これからも頑張ってくれると思います。また、娘も勉強、部活に頑張り、学校生活を楽しんでおります。このように子どもたちが頑張れたのは、父を亡くした当初から私たちに寄り添い、たくさんの力をお貸しいただいたみなさんのおかげだと思っています。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。これからも、子どもたちを見守りながら私も頑張っていけたらと思っています。(沖縄市・Kさん)
- お陰様で、娘がこの春から国家公務員への採用が決まりました。皆さまのお力添えがあったことで、大変ありがたく思っております。息子も、今後就職活動をするのか、大学院に進むか迷っているようですが、あと一踏ん張り、私も仕事を続けていきたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。(那覇市・Yさん)
- 三男の就職が無事決まりました。これまでの支援、本当にありがとうございました。大変助かりました、感謝いたします。次男は大学生活あと一年。もうしばらくはお世話になると思います。よろしく願いいたします。(沖縄市・Uさん)

初寄付

地方創生応援私募債で60万円 大成ホームと琉球銀行

琉球銀行（川上康頭取）が取り扱う地方創生応援私募債を利用した大成ホーム（喜名奎太社長）と写真右から2人目）は、私募債発行時に係る手数料の寄付先に当会を指定。12月26日、手数料受領者の琉球銀行より、その一部の60万円が贈られた。琉球新報社で行われた贈呈式には、大成ホームの安仁屋雅秀常務、琉球銀行城間支店の嘉陽裕史支店長が同席。喜名社長は「子

春風トシローさんが1万円 腹話術で交通指導

長年、腹話術で交通安全指導や啓蒙活動に取り組んでいる南城市の春風トシローさん（写真右）は12月23日、腹話術師のヒロさん（同左）と育成会事務所を訪れ「どんなに小さな交通事故も起こってほしくない。ハンドルを握る方は常に気を引き締めてほしい」と話し、1万円を寄付した。

どもたちをみんなまで支え合い、立派な社会人に成長することを願う」と話した。



ジャンプグループが10万円 グループメンバーの思いを込めて

グループ企業10社からなるジャンプグループ（代表者・又吉盛治、又吉自動車商会社長）は1月25日、イオン具志川屋上特設会場で中古車カーニバルを開催し、グループ会社から寄せられた10万円を寄付した。担当役員のアズマックスの東永宜社長とケイエム自動車の米須正浩社長は「子どもたちへの支援は車を商いとする全グループの思いです」と話した。



アダムジャパンが5万5千円 ビリヤードを通して目標をもって

ビリヤードキユースティックの開発、製造、販売を行っているアダムジャパン（関根沙織社長、埼玉県）は、1月に開かれた県ビリヤード協会主催のチャリティ大会での同社製品の販売売上5万5000円を贈った。1月21日、育成会事務所を訪れ

た関根社長（写真）は「若い方にはビリヤードを通して目標をもってほしい」と話した。



ネットバンキングでの寄付者の皆様へ

いつも、子どもたちを応援していただき厚く御礼申し上げます。

さて、当育成会へご寄付される方で、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを活用し、ネットバンキングをご利用される方が少しずつ増えております。

ただ、大変心苦しいことに、ネットバンキングをご利用された場合、ご寄付者様の情報入手に制限があり、領収書発行の対応ができない状況にあります。

ネットバンキングをご利用される方や初めてご寄付される方は、大変お手数ですが当育成会までご一報いただけましたら幸いにございます。

皆様からの貴重なご寄付につきましては、しっかりと領収書を発行し、また、機関紙などにも掲載することで、ご寄付に対するお礼とさせていただきます。

当育成会としましても、時代に合った寄付金受け入れ体制に努めるべきところではございますが、まだまだ追いつけていないのが現状でございます。

それでも、皆様から寄せられたご寄付につきましては、しっかりと管理し、確実に子どもたちの学業支援金として活用しております。

今後とも、当育成会の給付支援事業につきまして、ご理解とご協力を賜りますよう事務局一同お願い申し上げます。

継続団体・個人

毎月10日はレンタカーの日 県レンタカー協会が25万8千円

県レンタカー協会（野原朝貞会長）は、10月に開催した第18回チャリティーゴルフ大会で会員らから寄せられた25万8000円を寄付した。11月13日、琉球新報社で贈呈式が行われ、野原会長は「毎月10日をレンタカーの日とし、交通安全をモットーに協会全体で事故低減に努めている」と話した。贈呈式には、安里政宏副会長

丸真産業が4万円 子どもたちの未来に

丸真産業（當眞嗣正社長）は、「結プロジェクト」の淨財として4万円を寄付した。同プロジェクトは、系列パチンコ店マルシン利用者の景品引き換えの選択肢に福祉団体への寄付を導入し、利用者が選んで寄付するシステム。11月11日、育成会事務所を訪れたマルシンV4の森田潤店長（写真）は「結プロジェクトの認知も広がってきている。子どもたちの未来のために続

と與古田思好専務理事も同席。



けていきたい」と話した。



チャリティー洗車キャンペーン 県石油組合青年部会が10万円

県石油商業組合青年部会（嘉手川彦部長）は、加盟115店舗で10月の一カ月間、抽選付第12回チャリティー洗車キャンペーンを実施し、その収益金の一部10万円を寄付した。11月13日、八重瀬町の石油組合会館で抽選会と贈呈式が行われ、前原元哉副理事（写真前列中央）は「子どもたちの力になれば嬉しい。キャンペーンの認知も広がってきている。今後も継続していきたい」と話した。



整備振興会青年部10万円余 安全な車で事故の減少に繋げたい

県自動車整備振興会商工組合合同青年部（小渡大輔部会長）は、9月に開催したチャリティーゴルフコンペの参加者から寄せられた10万8800円を寄付した。11月29日、同振興会のマスコット「てんけんくん」と共に育成会事務所を訪れた小渡部会長は「自動車整備の観点から、安全な車を走らせる

琉球新報社営業局と 読者事業局が招待

琉球新報社営業局（普久原均局長）は、12月4日、豊見城市のTOMITONで開催されるキッズカーニバル（12月21日から1月13日）の招待券30枚を贈った。また、同社読者事業局の琉球新報子どもまつり実行委員会（國吉利彰委員長）からは、12月22日県立武道館アリーナ棟で開催の琉球新報子どもまつりの招待券200枚が贈られた。國吉利委員長は「子どもたちに楽しんでもらえる一年に一度のイベントです」と話した。

努力を続け事故の減少に繋げたい」と話した。



**県宅地建物取引業協会
創立55周年で10万円**

県宅地建物取引業協会（知念聡会長）写真右から2人目）の創立55周年記念式典・祝賀会が11月15日那覇市内のホテルで開かれ、その席上で知念会長より「これからも福祉事業に励んでください」と寄付金10万円が贈られた。寄付金は当会のほか、県社会福祉協議会とNPO法人メッシュ・サポートへも贈られた。



**しまたて協会が30万円
道路整備で事故減少に繋げたい**

沖縄しまたて協会（木下誠也理事長）は12月2日、福利厚生事業の一環として30万円を寄付した。琉球新報社で行われた贈呈式で喜舎場正秀理事（写真中央）は「道路を整備すれば走りやすくスピードも出てしまう。事故の減少を意識し取り組んでいきたい」と話した。贈呈式には企画部企画課の松田泰成課長（同左）からも出席した。



**健やかな成長を願う
卸商業団地が20万円**

県卸商業団地協同組合（池原一則理事長）は12月11日、20万円を寄付した。同組合の照屋功専務理事（写真右）と名嘉山より子総務課長が育成会事務所を訪れ「子どもたちが健やかに成長することを願う」と話した。同組合は毎年歳末助け合いとして福祉団体等への寄付を続けている。



**一年分の思いを込めて
丸徳ガスが7万円余**

丸徳ガス産業（上原貴行社長）は、社員が一年間貯めたお金7万5514円を寄付した。12月12日、同社経営管理の上原隆二部長（写真左）と安里善彦係長が育成会事務所を訪れ、「交通安全を意識しながら、子どもたちの支援も続けたい」と話した。良いことがあれば幸せを分かち合おうという社員の思いが込められている。



**交通事故ゼロを願う
県トラック協会が26万円余**

県トラック協会（佐次田朗会長）写真中央）は、毎年10月9日の「トラックの日」にちなみチャリティ「ゴルフ大会」を開催。参加した会員や関連事業者らから寄せられた浄財26万7693円を寄付した。12月17日、琉球新報社で行われた贈呈式で佐次田会長は「交通事故ゼロと飲酒運転撲滅に取り組み、遺児のいない社会を願う」と話した。贈呈式には伊是名昇英副会長、新垣正仙副会長、宮平仁勝事務理事らが同席した。



皆さまの善意に感謝します

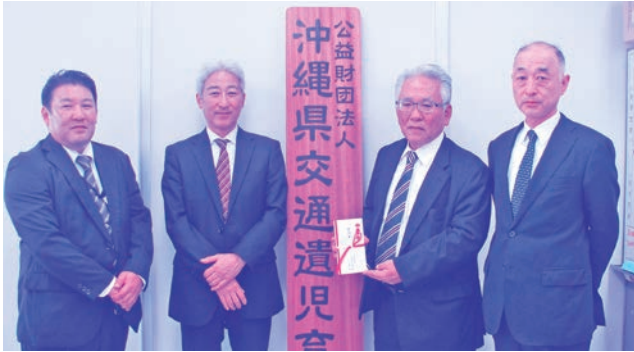
**安全運転を心がけハンドル握る
県個人タクシー事業が12万円**

県個人タクシー事業協同組合(義永勉理事長)写真中央は12万円を寄付した。寄付金は組合からの10万円と運転手らが募金した2万円。12月20日、喜屋武良規副理事長と仲村修事務局長とともに琉球新報社を訪れた義永理事長は、「ハンドルを握るときは常に安全運転を心がけている。繋がれてきた寄付金活動を受け継いでいきたい」と話した。



**負けないように頑張って
沖縄出光会が4万6028円**

沖縄出光会(濱元清会長)写真右から2人目)は、19カ所の事業所に設置している募金箱に同会からの寄付を合わせた4万6028円を寄付した。12月23日、沖縄出光の竹田光二社長と松本光裕販売部長、平良一也販売課長と共に育成会事務所を訪れた濱元会長は「子どもたちには負けないように頑張ってほしい」と話した。



**日生労組が5万円余
勉強できる機会を**

日本生命労働組合那覇支部(竹本伸介委員長)写真左は12月13日、同労組が開いたチャリティオークションの収益金5万261円を寄付した。同支部の白瀧裕紀さんと共に育成会事務所を訪れた竹本委員長は「子どもたちが勉強できる機会をつくれるよう応援したい」と話した。

**県中古自動車販売協会が26万円
車を扱う協会として支援**

県中古自動車販売協会(幸喜洋三会長)写真右から3人目)は12月27日、北中城村のJU会館で行われたオークション会場で26万円を贈った。幸喜会長は「車を扱う協会として、今後も子どもたちのために貢献していきたい」と話した。寄付金は会員から寄せられたものやオークション募金、キャンペーンの収益金などが充てられた。寄付金は当会のほか、北中城村社会福祉協議会と交通遺児等育成基金にも贈られた。



**子どもたちの役に立てて
故・徳田和子氏が遺産遺贈**

2019年6月に亡くなった徳田和子さんをしのぶ会が12月15日、宜野湾市の沖縄キリスト教センター会堂で開かれた。遺言執行者代行人の山崎優輝法律事務所山崎優輝弁護士より「徳田さんは生前、全財産は交通事故で遺された子どもたちへ寄付してほしい」との思いがあったと報告。集まった関係者の前で目録の贈呈が行われた。



**専心池坊琉球支部が5万円
設立記念寄付が今年で38回目**

華道専心池坊琉球支部(翁長光泉支部長・写真右から2人目)は、12月12日の同支部設立記念寄付として5万円を贈った。12月25日、育成会事務所を訪れた翁長支部長は「加害者、被害者両家族のお子さまが頑張っているように、ささやかながらも支援を続けたい」と話した。贈呈式には、山城春子副支部長と会計の我喜屋香さん、玉城律子さんが同席した。

**大会収益金と加盟店設置の募金箱
ビリヤード協会が13万円余**

県ビリヤード協会(富里正史会長)は13万6393円を寄付した。1月19日、第22回チャリティービリヤード大会が那覇市内のビリヤード&ダーツ・カフェバー「Neo Batul」で開かれ、開会式で行われた贈呈式で富里会長は「感動と共感ができるこの大会を通して寄付も続けたい」と話した。大会には、交通遺児として県外で奨学金を受け、現在はビリヤード製品・製造会社の社長を務める平岡正人氏との交流も行われた。



**平等に勉強できる環境を
比嘉美恵子氏が3万円**

宜野湾市の比嘉美恵子さん(写真)は1月16日、育成会事務所を訪れ「皆が平等に勉強できる環境であってほしい」と、3万円を寄付した。比嘉さんは退職後、地域のボランティア活動等にも携わり、子どもたちには進学の夢を諦めないで欲しいとの思いで寄付を続けている。



**西協力会が2万円余
今後も支援つづきたい**

タクシー乗務員の親睦団体、西協力会(新垣敏克会長)は、月例の会合で会員から募った2万2000円を12月25日寄付した。会計の仲座正之さん(写真左)と書記の新城貢さん(同右)が育成会事務所を訪れ「少ない会員の中でも、続けられるうちは支援していきたい」と話した。

**困っているお友だちへ
愛泉保育園園児が3万円**

那覇市安里の愛泉保育園(妹尾正和園長)は1月23日、礼拝時やクリスマス献金など一年を通して集めた募金3万円を寄付した。代表して



3、4歳児クラスの子どもたち15名が育成会事務所を訪れ「困っているお友だちのためにお使い下さい」と声を合わせた。

**子どもたちの役にたてて
池間弘さんが50万円**

宮古島市出身の池間弘さん(写真)が12月20日、育成会事務所を訪れ50万円を寄付した。自身も幼いころに親を亡くしたことで重ね、「寄付することで子どもたちを応援し育てていきたい」と話した。池間さんは仕事を引退されてから、さまざまな福祉事業への寄付を続けている。

